

平成 28 年度海洋水産資源開発事業（定置網）の調査概要



調査船：鈴丸（9.91トン）
 調査期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月
 調査海域：興津岬から井ノ岬にかけての高知県黒潮町鈴沖合海域

調査の目的

鈴共同大敷組合（高知県幡多郡黒潮町鈴：図 1）を調査地とし、乗組員の高齢化、新規就労者確保問題を解決するため、作業の省力化、漁獲物の価値向上、沖合漁場の評価を実施し、利益の増大を目指した新たなビジネスモデルを提案する。

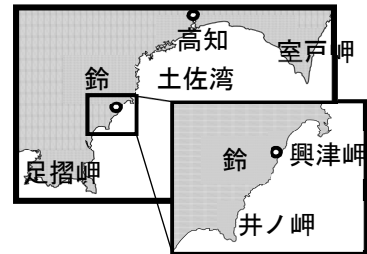


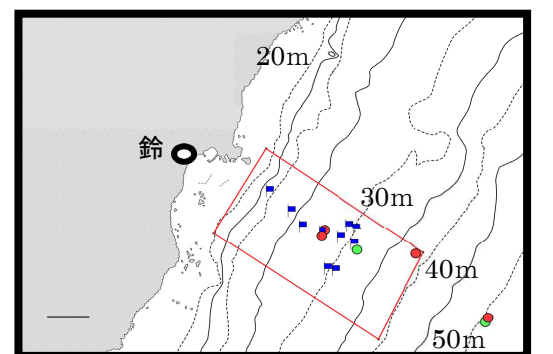
図 1 調査海域

本年度調査の主な成果等

(1) 対象資源に関する調査は、漁獲物の季節別組成の把握を中心に実施した。結果、マアジ、ブリ、タチウオ等が重要魚種であることが判明した。また、出荷対象とならない小型のさば類等が時期的に漁獲されることも判明し、それらの有効利用方策の検討が必要と考えられた。

(2) 操業に関する調査では、1) 作業実態把握、2) 現状網の設置状況把握と沖出し想定位置における漁場の可能性評価を実施した。結果、漁獲、水揚げ・選別、網の保守管理作業等について 1 日・年間の作業工程は AM6:30～PM2:30、9 月～7 月であること、毎日昼網を実施すること、作業人員は 9～11 名必要であること等を把握した。現状網設置付近及び沖出し想定位置の漁場環境把握のため、現状網設置付近（水深 35m）、沖出し想定位置（水深 55m）の中層に小型電磁流向流速計を設置し、流向・流速を観測（図 2）。また、それらの魚群量を比較・評価するため魚探ブイも設置。さらに、現状網の箱網等に深度ロガーを複数設置し網深度変化を計測した。結果、弱い潮でも網が吹き上がる現象を把握した（図 3）。そのほか、北海道大学に委託し、船舶を用いた計量魚群探知機調査を実施。冬場は岸側、夏場は沖側の魚群豊度が高いことを把握した。

(3) 漁獲物の価値向上に関する調査は、高知県に委託し、県内外での販路拡大に向けた取り組みを中心に実施した。大都市圏への直接出荷や飲食店への直販等、高知市での鈴大敷漁獲物の認知度向上（写真 1）、脱血神経締めなどによる漁獲物の鮮度保持の取り組み等を行った結果、これらは販路拡大に一定の効果を及ぼす可能性のあることが判明した。



■ 鈴定置網免許水域 ● 魚探ブイ
 ■ 定置網設置位置 ● 小型電磁流向流速計（深度ロガー）

図 2 観測機器設置箇所

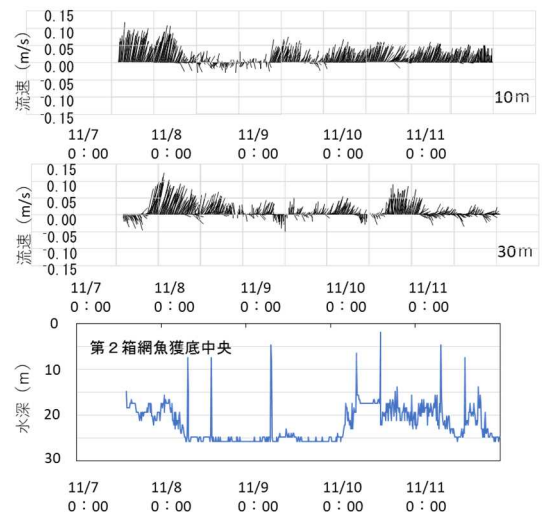


図 3 現状網付近潮流と網吹き上がりの関係



写真 1 漁業者による販売（高知市内）